

首都圏を中心に若年層で、麻疹（はしか）が流行し、休講する大学が増えています。これまで大人がかかるケースはまれと考えられていましたが、全国的に拡大の気配を見せています。そこで今回、「麻疹（はしか）」についてお話ししたいと思います。

●はしかの流行はなぜ？

今年、成人麻疹が特に多い原因として、

- ・ 10代後半の年齢層でワクチン接種率が比較的低いこと。
- ・ 最近では過去に比べて大規模な麻疹の発生が少なくなった。ワクチンを接種した人はウイルスに接触すると免疫が増強されるが、その機会が少なくなったため、麻疹ワクチンを接種していても免疫が低下してしまった人がいること。



これらのことから、集団全体としての免疫が低くなったと考えられています。

●麻疹（はしか）とは

麻疹ウイルスによるウイルス感染症で、小児期の代表的な感染症の一つです。例年4～6月が麻疹の流行期です。感染力が強く、患者さんと同じ場所にいるだけで感染（空気感染）する可能性があります。

はしかは、大人がかかると重症化することが多いと言われています。はしかが怖いのは、肺炎や脳炎といった重い合併症を起こすことがあるからです。

●麻疹の症状

1. 感染後（麻疹患者と接触）9～12日後に症状があらわれます。（潜伏期間）
2. 初期症状（はじめの3～4日）は38℃ぐらいの発熱と咳、鼻水、目の充血などの風邪に似た症状です。
3. その後、一旦熱が下がり（1～2日）、口腔内にコプリック斑という白い斑点が出て、高熱（39～40℃）と全身に赤い発疹がみられます。高熱は4～5日続きます。

●麻疹の治療

特別な治療法はありません。症状に応じて、咳止めや解熱剤などを使用します。また、細菌の二次感染を引き起こしやすいので、抗生物質も服用します。

脱水やビタミン欠乏になりやすいので、水分や栄養の補給にも気をつけましょう。

●麻疹の予防法は

速やかにワクチン接種を行なうことです。

麻疹にかかったことがなく、麻疹ワクチン未接種の方には接種をお勧めします。

ただし、予防接種は有料です。

尚、麻疹単独ワクチンは入手困難になっています。この場合、「麻しん風しん混合ワクチン（MRワクチン）」の接種が可能です。

過去に風しんにかかったことがあっても、MRワクチンを接種することは差し支えありません。

●感染の予防

- ・ 規則正しい生活と十分な栄養補給、休養に努め、人ごみへの外出は避けましょう。
- ・ うがいや手洗いを励行しましょう。



●熱が出て医療機関を受診する際には注意を

受診する際には、あらかじめ電話で相談して、受診の方法を確認して下さい。病院の待合室等で人にうつしてしまう危険があります。

●麻疹と診断された場合は

熱が下がってから3日間経過するまでは、外出（通勤・通学等）は控えてください。

<参照> ホームページ

- ・ 岡山市保健所
- ・ 東京都感染症情報センター